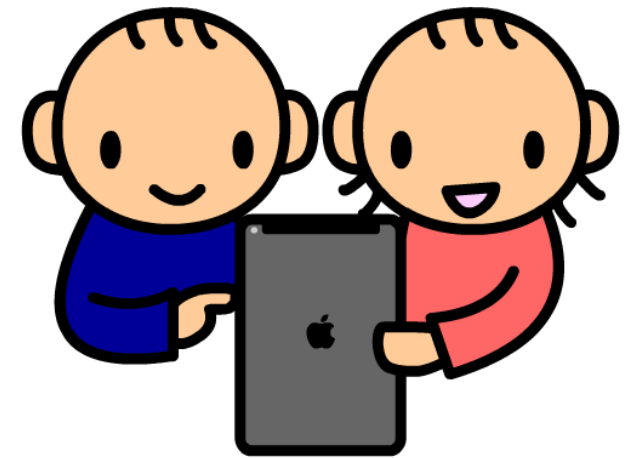


令和7年度 現職教育まとめ

香川県立香川東部支援学校

研究テーマ

個別最適な学びにつながる指導・支援をめざして
～子どもが主体となるICT活用の検討～



社会的な背景

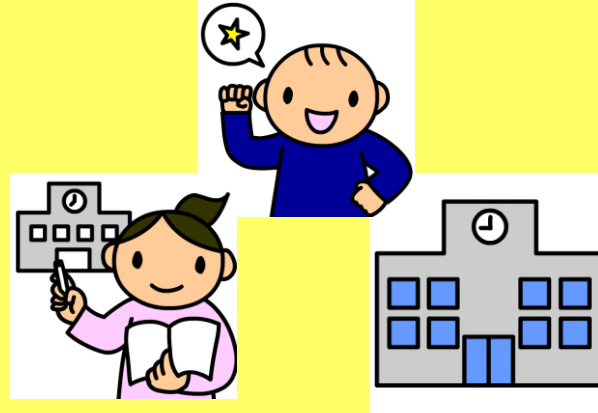
令和の日本型学校教育



個別最適な学びと協働的な学びの
一体的な充実

ICTは必要不可欠

本校が目指す 子ども・教師・学校の姿



考える力と自律の力、豊かな情操を
はぐくむICT教育の実践

個別の教育支援計画等の実行ある
活用の推進

本校の研究

R4~6各学部での独立した取組

➡ R7~
学校全体で
系統立った
取組



R7
教育研究部とメディア教育部の
統合



個別最適な学びにつながる指導・支援をめざして
～子どもが主体となるICT活用の検討～

個別最適な学びにつながる指導・支援をめざして ～子どもが主体となるICT活用の検討～



取組1

基礎研修（全職員対象）

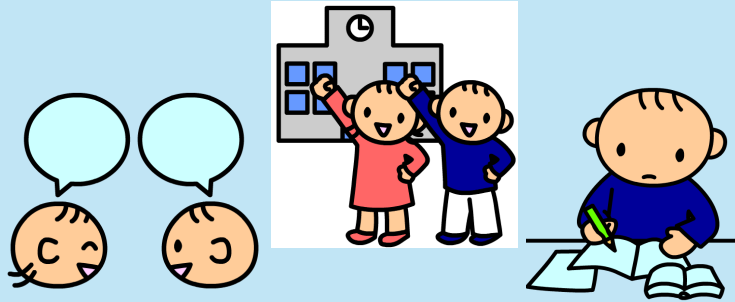
①合理的配慮について
教育研究部
6月26日（木）

② 公開学習会

講師：香川大学坂井聡教授
「合理的配慮を
どう考えればよいのか？」
8月1日（金）

取組2

グループ研究（全職員対象）

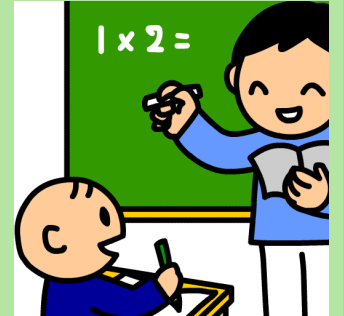


- ◇コミュニケーション支援
- ◇活動支援
- ◇学習支援

取組3

授業研究

経年研修の
研究授業から
各学部年2回の
授業討議を行う



- ①1学期（学校訪問）
- ②2学期

合計6回の授業討議

取組 | 基礎研修

① 合理的配慮について(6/26)



- ・学校における「合理的配慮」について理解すること
- ・児童生徒に実際に行っている「合理的配慮」について考えること

合理的配慮

基礎的環境整備

配慮が何も無い状態

平等ではあるが、左の子はまだ見えない

個別に支援を提供
全員が見れる!

環境を変えれば、
ハンディキャップは生じない

背の低い左の子どもも踏み台を2つ使えば(個に必要な配慮をすれば)、みんなと同じように試合観戦を楽しむことができる。

グラウンドの周囲を壁から金網に変えたら(みんなにとって良い環境を整えておけば)、全員が試合観戦を楽しむことができる。

合理的配慮

基礎的環境整備

イラスト(発達障害のある小中高生向け放課後等デイサービスTEENS)

< 研修スライド一部 >

内容

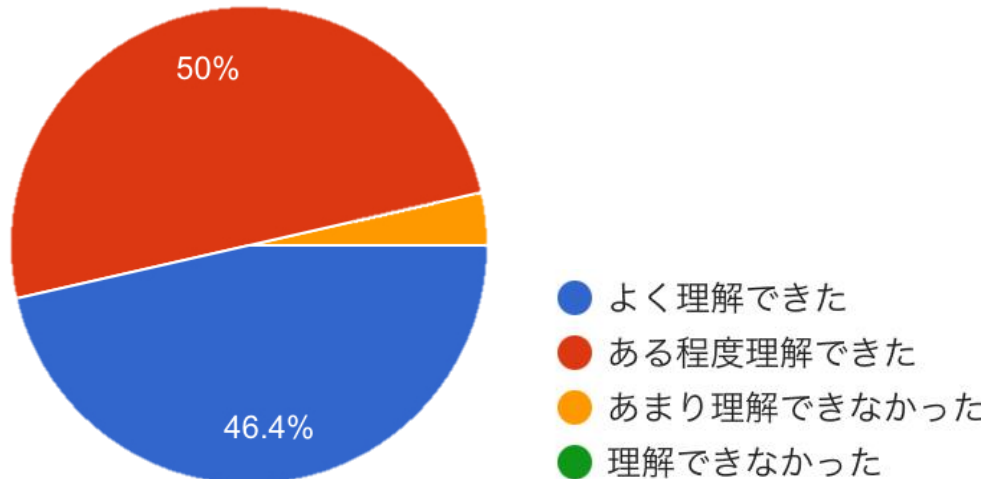
- ・「合理的配慮」と「基礎的環境整備」の違い
- ・学校における「合理的配慮」の3観点 | 1項目
- ・「合理的配慮」提供の流れ
- ・グループワーク(これって合理的配慮?)

取組 I 基礎研修

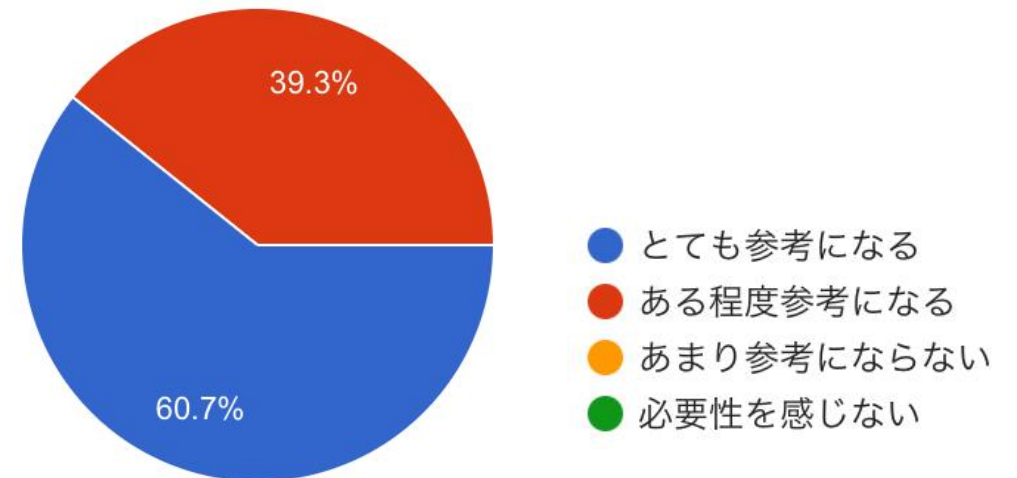
① 合理的配慮について

 研修を終えて(事後アンケートより)

Q合理的配慮について、
理解することができましたか？



Q「3観点11項目」による整理方法は、
今後の支援の参考になりそうですか？



合理的配慮についての理解を推進

②公開学習会(8/1)

講師: 香川大学教育学部 坂井聡教授

演題 合理的配慮をどう考えればよいのか?

共感的に 肯定的に 寛容に評価する

- 自分を理解
 - 自分をポジティブに理解する
 - 学び方を知る
 - 気質を知る
- 他者につながる
 - 理解されることによってつながることができる
 - 必要とされていることを実感できる
- 凸凹の凸に視点を当てる
 - 凸は伸ばす 凹は助けてもらう



研修の様子

②公開学習会

演題

合理的配慮をどう考えればよいのか？



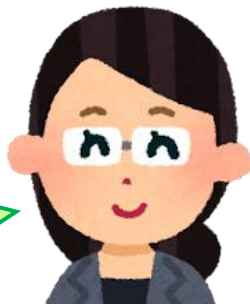
これまで行動の結果を評価することが多かったが、子どもの行動を引き出す環境調整の部分についてもっと考えようと思った。

生徒の課題ばかりに目を向けがちになってしまっていたので、長所や人と違うところを認めて伸ばすことを意識しようと思った。



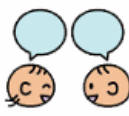






適切な環境調整を行なって、児童生徒が進んで活動に参加できるように、みんな同じものが見えるようにしていきたいと思った。

子どもたちにとって環境の一部でもある私たち教員が、成長を妨げる要因になっていないかを考えながら関わっていきたい。



取組2グループ研究

- ICT活用の三観点を基に、
「コミュニケーション支援」
「活動支援」
「学習支援」の
縦割3グループに分かれて、
月1回程度の研修を行った。

観点	A コミュニケーション支援		B 活動支援			C 学習支援		
項目	A1 意思伝達 支援	A2 遠隔 コミュニ ケーショ ン支援	B1 情報入手 支援	B2 機器操作 支援	B3 時間支援	C1 教科学習 支援	C2 認知発達 支援	C3 社会生活 支援
事例	タブレットPCの文字入力機能を使った実践 	タブレットPCの文字入力機能を使った実践 	教科書を読む際に、読み上げ音声で内容を理解 	タブレットPCで写真を撮る 	授業の流れを理解する 	タブレットPCとアプリを利用した漢字学習支援 	タブレットPCなどを使いながら個々の学習課題を支援した事例 	自分の姿を振り返るモニタリング事例 

取組2グループ研究

【ICT活用事例シート】

(参考:国立特別支援総合研究所の実践事例様式等)

☆子どもの実態にそった
ICTの活用を検討



☆支援の経過や効果を可視化
課題を整理



☆実践を共有することで、
学校全体のICT活用の底上げ

ICT活用事例シート (案)

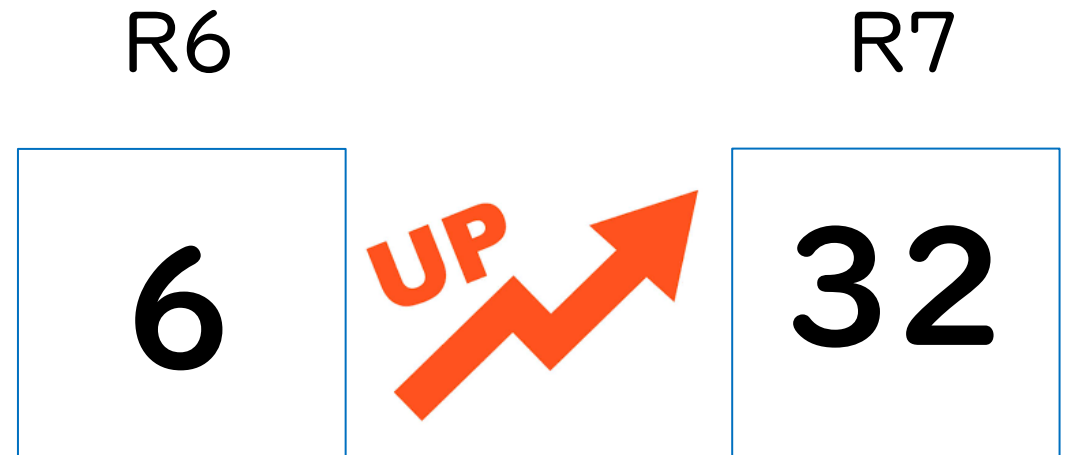
氏名 ()

タイトル		
子どもの実態	学部・学年	<input type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部 ()年
	障害種	
	困難さやニーズ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをとること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着く・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他()
	指導目標	
ICTの活用	意図	Aコミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 音声伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) B活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) C学習支援 (<input type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援)
	使用した機器・アプリ等	
	活用場面	
指導・支援の経過		
効果・評価		

取組2グループ研究

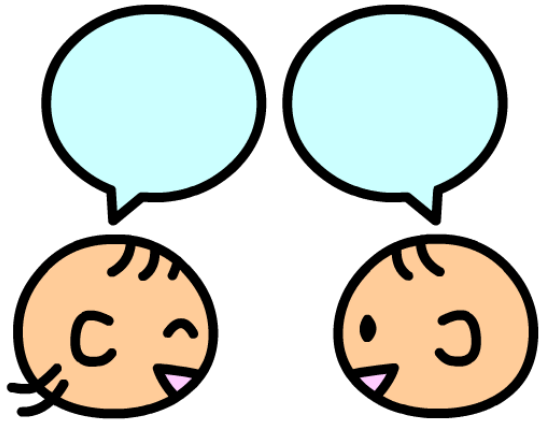
【各グループで取り上げた事例】

コミュニケーション	7
活動	14
学習	11
合計	32

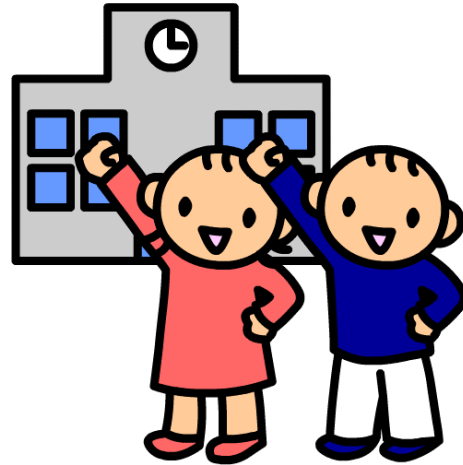


ICTの活用事例を増やすことができた

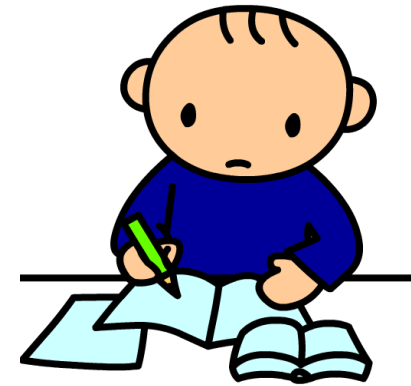
グループの取組



コミュニケーション
支援グループ



活動支援
グループ



学習支援
グループ

取組3授業研究

【今年度学部での授業討議を行った研究授業】

		学年・グループ	教科等	題材・単元
1学期	小	3年	生活単元 学習	体の大事なところはどこかな
	中	2年	数学科	簡単な表やグラフを作ろう
	高	1年	職業科	校内実習の目標を決めよう
2学期	小	3年	図画工作 科	ねんどでごちそうなにつくろう？ ～ぼくたちわたしたちのリクエスト給食～
	中	音楽A	音楽科	物語に命を吹き込む！音楽づくりワークショップ ^o ～おむすびころりんももたろう～
	高	木工班	作業学習	若竹祭に向けて

取組3授業研究

【授業参観コメントシート】

授業参観コメントシート R7	
教科等 (作業学習)	学級・グループ (高等部木工班)
単元・題材名 (若竹祭に向けて)	授業者 (沼田 慧)
☆授業の良かったところや改善点を記入してください。	
1 単元・本時のねらいについて	
2 学習活動について	
3 支援の工夫や教材について	
参観者 氏名 ()	

全校で統一した様式で、授業への感想や意見を授業者へ。

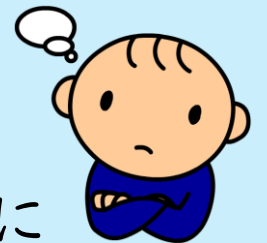
討議の中で出せなかった意見も、授業者に届けられる。

研究テーマの視点に沿った内容にすると、より焦点を絞った意見が出るのではないかな。



授業討議の在り方は検討が必要

- ・テーマに沿った討議の進め方
- ・授業者、参加者ともに有意義な議論にするために

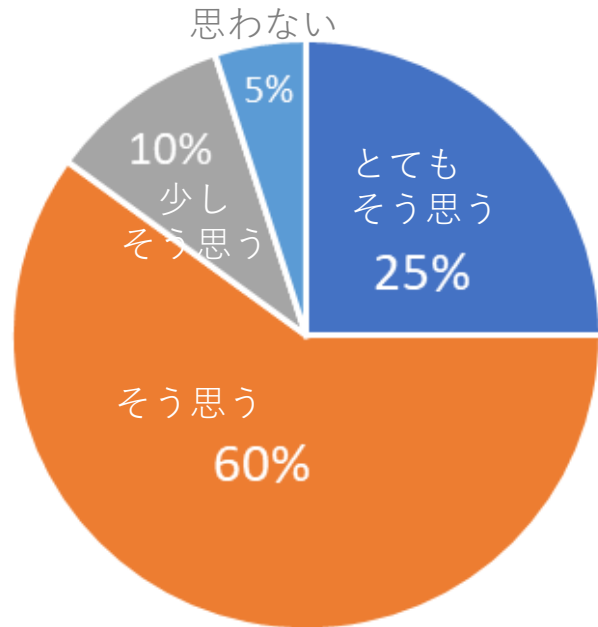


まとめ



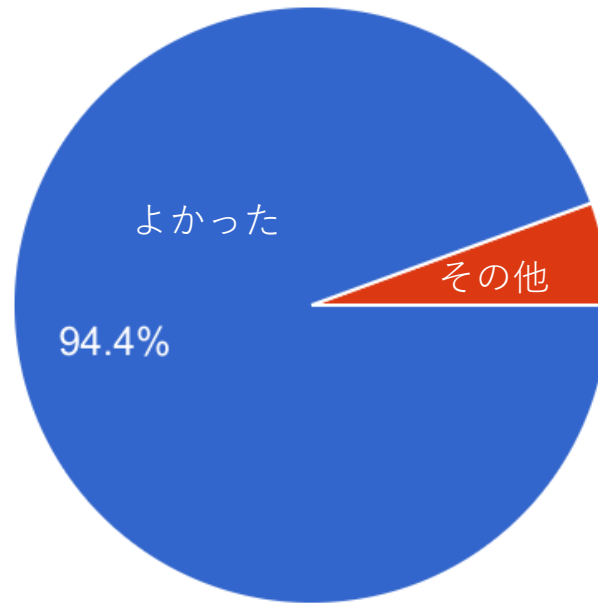
教員のICT活用指導力の向上

コミュニケーション支援



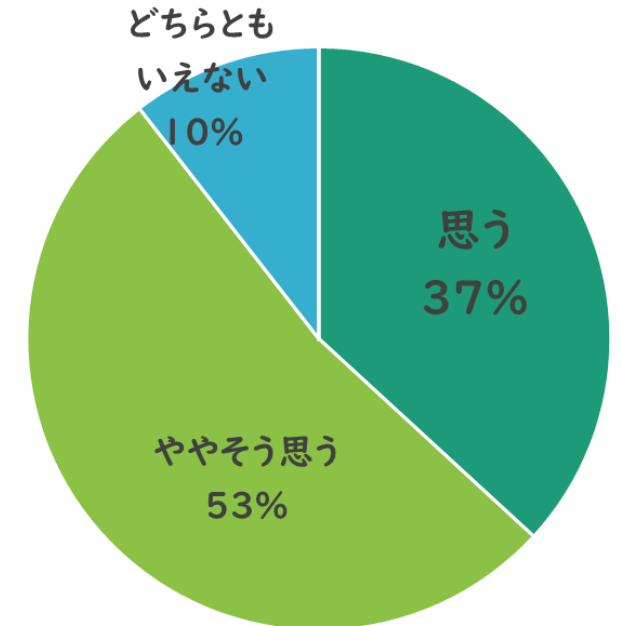
Q.研修前と比べて、ICT活用への理解が深まったか。

活動支援



Q.ICTを活用した教材作成は有意義だったか。

学習支援



Q.ICT活用に向けた知識や能力が向上したか。

まとめ



個別最適な学びをめざした活用



- 子どもの意欲が向上し、ICTを活用する機会が増えた
- 子どもの習熟度、特性、興味、課題に応じた学習を提供できた
- タブレットで視覚的に提示することで、見通しをもち落ち着いて取り組むことができた
- 自分から要求を伝えようとする姿が見られるようになった
- 伝わる感覚を味わえることで、ツールを意識して活用できる回数が増えた